臺灣日日新報 夕刊 臺灣昌新幸民
七月一日
夕刊固定一部二部
新報社 佐々木 朝
臺北市日日新報社 臺北市(電話第六番) 基隆支局 臺中市(電話〇〇番) 臺南支局 高雄市(電話〇〇番) 花蓮港支局 屏東支局 大阪市(電話〇〇番) 大阪支局 東京市(電話〇〇番) 東京支局

銘酒 楓白鹿

大陸に於ける長期建設に邁進

板垣陸相の事變觀

【東京一日發同盟】去る二十四日貴衆兩院本會議に於ける陸相聲明の要旨は左の如くである

一、日露戰爭は所謂國力の總てに亙り、まさに國家興亡の關する大戰であつたが、今次の事變は之に比すべくもなく、國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

十三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

十四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

十五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

十六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

十七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

十八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

十九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二十三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二十四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二十五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二十六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二十七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二十八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二十九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

三十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

三十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

三十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

三十三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

三十四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

三十五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

三十六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

三十七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

三十八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

三十九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

四十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

四十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

四十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

四十三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

四十四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

四十五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

四十六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

四十七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

四十八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

四十九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

五十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

五十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

五十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

五十三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

五十四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

五十五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

五十六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

五十七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

五十八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

五十九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

六十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

六十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

六十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

六十三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

六十四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

六十五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

六十六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

六十七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

六十八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

六十九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

七十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

七十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

七十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

七十三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

七十四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

七十五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

七十六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

七十七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

七十八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

七十九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

八十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

八十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

八十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

八十三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

八十四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

八十五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

八十六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

八十七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

八十八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

八十九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

九十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

九十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

九十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

九十三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

九十四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

九十五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

九十六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

九十七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

九十八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

九十九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百十三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百十四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百十五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百十六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百十七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百十八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百十九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百二十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百二十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百二十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百二十三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百二十四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百二十五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百二十六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百二十七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百二十八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百二十九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百三十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百三十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百三十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百三十三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百三十四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百三十五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百三十六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百三十七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百三十八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百三十九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百四十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百四十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百四十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百四十三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百四十四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百四十五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百四十六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百四十七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百四十八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百四十九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百五十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百五十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百五十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百五十三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百五十四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百五十五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百五十六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百五十七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百五十八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百五十九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百六十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百六十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百六十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百六十三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百六十四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百六十五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百六十六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百六十七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百六十八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百六十九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百七十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百七十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百七十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百七十三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百七十四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百七十五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百七十六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百七十七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百七十八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百七十九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百八十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百八十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百八十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百八十三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百八十四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百八十五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百八十六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百八十七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百八十八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百八十九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百九十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百九十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百九十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百九十三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百九十四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百九十五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百九十六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百九十七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百九十八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

百九十九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百十三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百十四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百十五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百十六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百十七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百十八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百十九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百二十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百二十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百二十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百二十三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百二十四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百二十五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百二十六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百二十七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百二十八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百二十九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百三十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百三十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百三十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百三十三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百三十四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百三十五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百三十六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百三十七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百三十八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百三十九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百四十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百四十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百四十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百四十三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百四十四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百四十五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百四十六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百四十七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百四十八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百四十九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百五十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百五十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百五十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百五十三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百五十四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百五十五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百五十六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百五十七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百五十八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百五十九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百六十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百六十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百六十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百六十三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百六十四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百六十五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百六十六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百六十七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百六十八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百六十九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百七十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百七十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百七十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百七十三、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百七十四、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百七十五、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百七十六、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百七十七、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百七十八、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百七十九、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百八十、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百八十一、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力の一部を以て處理し得る程度のものである

二百八十二、日露戰爭は所謂國力の總てを擧げて戰つたが、今次の事變は國力

昭和十三年七月五日　土曜日　朝日新聞社　（第三種郵便物認可）

本社主催

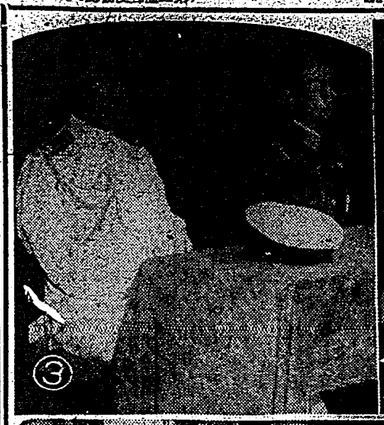
支那事變博

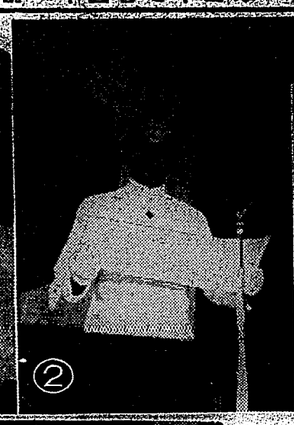
けふ盛大な開會式

軍官民代表參列の下に開催

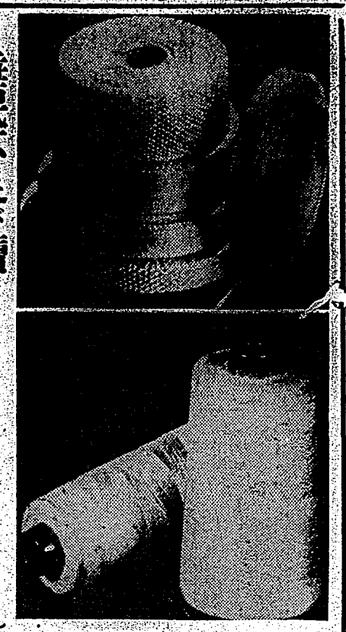
會場を巡覽した來賓たち

會場上空に飛來して亂舞する國防献金號の祝賀飛行とビラ撒き





睡眠不足が續くと 活動不能となる 心得べき睡眠の生理學（上）



夜は

十一時頃まで、朝は六時半からラヂオは賑ひびいて居り、またラヂオの現でなる間は、どんな音樂的、藝術的なものでも、決して靜かなくては熟睡は出來ない。殊に非文化人の多い台灣、殊に都會の折から周圍は開放されてゐるので、靜寂な夜方がない。當然が家を侵入する

臺灣

の都市では、とかく睡眠不足になる。假に十二時に寢ても、六時半には起されるから六時間半しか睡眠が出來ない。ましてやひと眠りする頃のラヂオが終つてから仕事をしようと云ふやうな人が增加する今日では睡眠時間はますます少くなり

國民

の體位の上から見ても一個の問題である。しからば一體「睡眠は何か」ここには「アルラヂ」と醫學博士E・D・アドリアン教授が設定した說を參照して說明しよう。

人間

×

には八時間の睡眠が必要であるといふことは、子供でも知つてゐる。睡眠は勿論の回復を齎し、身體の疲勞物質を除去して元氣よく活動してゐるときには意識に消失されるのである。

長い

睡眠らないでゐると勿論その他に何らの缺點がなくても、體調はもはや活動を續けることが出來なくなるといふ感に襲ふる。それは全く外的な刺戟によつてだけれが睡かなくなるし、目を覺ましておくためにはその刺戟を益々强くしなければならない。

我々

が睡眠を必要とするといふ事實より興味のあるのは睡りにおける過程及び睡りから醒めるまでの過程である

×

睡りから

醒めるまでの經過はもうあまり知られ過ぎてゐるのでそれを不思議がつたりすることは殆どない。身體に刺戟して長々とねそべつてゐる、そして

精神

は何の働きもしてゐないただのろい、靜かな呼吸があるのみである、かうした睡りにあるとき、突然目覺まし時計が鳴つて睡眠時間に刺戟を與へる、脳肉は少しばかり緊直し、呼吸は早くなるが又は二度目に停止する、この時が恐らく回轉される、目覺まし時計が鳴り續き、それから突然

目は

開かれて物を見はじめ、日ざましの鳴は無關係なものではなくて、意識をもつたものとなつてくる、精神は元通りそれぞれの部署につき、睡眠の所有者はすつかり覺めて寢床の上に起き直る

×

暫つてゐるといつても、

身體は完全な無活動狀態にあるのではない、呼吸は續けられてゐるし、脳肉も完全に動かないわけではない

馬は

立ちながら睡るし、鳥は木にとまつて眠れる、この場合には脳肉は不斷に活動してゐるしかし、人間の場合には、呼吸を司る以外のすべての脳肉が殆ど完全に反射作用なしこれむりこんでしまふ長い時間がある、また睡りの最も熟い場合があつて、その場合には、脳肉は最も高度に活動してゐるのである、從へば戰に睡覺りを打つ程度から、强い手足の運動、或は寢言までである

×

スザンスキーといふ人は、種々の動物を六時間から四時間の間に睡眠を減じて見ても、何ら變つた事はなかつたといふ實驗を發表してゐる。

動物

の北四時間に於ける休養及び活動の時間を比較して、ある動物は二十四時間内に數回休養の時をもち、あるものは一度しかもたないといふことを發見したトロピドノトウス・ナトリックスといふ類に金色の鱗のある魚は後者の一例である、その魚は晝に正午から午後一時三十分まで活動し

注意すべき 紹の着つけ

遠藤波津子

六

月の末から八月にかけて、紹の着物は好まれて着られるとおもひますが、紹でも六月は紹縮緬、その次に紹といふ風に着られるやうですが、その反對でなかく、すつきりとは行きにくいもので、夏場には被つていただきたくないものです。紹縮緬は別ですが、平紹になるときらりと輝く、着附もよほど注意なさらぬと野暮つたくなつてしまひます。

×

先

づ夏はこの着物によらなくなることは勿論で、眼紹縮などは身に合つた小さいものをお召しになることです。これが大きかつたりお尻の上にまで長いのですとだらくと着こなしがうまく行かぬ上に、お尻の上に皺は出來るしてもお上手には出來ません。長襦

袢

ですが、身丈かつきりであること、そして長襦袢には普通の着物と同じ着丈を用ひますと汗で色が出ますから、ガーゼを二つ折りにして腰まで縫つけますと涼くつもなりません。また、汗よけにもなつて經濟です。

×

着

物ですが、夏は絽縮緬にきりりとした感じにお

夜

十一時頃まで、朝は六時半からラヂオは賑ひびいて居り、またラヂオの現でなる間は、どんな音樂的、藝術的なものでも、決して靜かなくては熟睡は出來ない。殊に非文化人の多い台灣、殊に都會の折から周圍は開放されてゐるので、靜寂な夜方がない。當然が家を侵入する

臺灣

の都市では、とかく睡眠不足になる。假に十二時に寢ても、六時半には起されるから六時間半しか睡眠が出來ない。ましてやひと眠りする頃のラヂオが終つてから仕事をしようと云ふやうな人が增加する今日では睡眠時間はますます少くなり

國民

の體位の上から見ても一個の問題である。しからば一體「睡眠は何か」ここには「アルラヂ」と醫學博士E・D・アドリアン教授が設定した說を參照して說明しよう。

人間

×

には八時間の睡眠が必要であるといふことは、子供でも知つてゐる。睡眠は勿論の回復を齎し、身體の疲勞物質を除去して元氣よく活動してゐるときには意識に消失されるのである。

長い

睡眠らないでゐると勿論その他に何らの缺點がなくても、體調はもはや活動を續けることが出來なくなるといふ感に襲ふる。それは全く外的な刺戟によつてだけれが睡かなくなるし、目を覺ましておくためにはその刺戟を益々强くしなければならない。

我々

が睡眠を必要とするといふ事實より興味のあるのは睡りにおける過程及び睡りから醒めるまでの過程である

×

睡りから

醒めるまでの經過はもうあまり知られ過ぎてゐるのでそれを不思議がつたりすることは殆どない。身體に刺戟して長々とねそべつてゐる、そして

精神

は何の働きもしてゐないただのろい、靜かな呼吸があるのみである、かうした睡りにあるとき、突然目覺まし時計が鳴つて睡眠時間に刺戟を與へる、脳肉は少しばかり緊直し、呼吸は早くなるが又は二度目に停止する、この時が恐らく回轉される、目覺まし時計が鳴り續き、それから突然

目は

開かれて物を見はじめ、日ざましの鳴は無關係なものではなくて、意識をもつたものとなつてくる、精神は元通りそれぞれの部署につき、睡眠の所有者はすつかり覺めて寢床の上に起き直る

×

暫つてゐるといつても、

身體は完全な無活動狀態にあるのではない、呼吸は續けられてゐるし、脳肉も完全に動かないわけではない

馬は

立ちながら睡るし、鳥は木にとまつて眠れる、この場合には脳肉は不斷に活動してゐるしかし、人間の場合には、呼吸を司る以外のすべての脳肉が殆ど完全に反射作用なしこれむりこんでしまふ長い時間がある、また睡りの最も熟い場合があつて、その場合には、脳肉は最も高度に活動してゐるのである、從へば戰に睡覺りを打つ程度から、强い手足の運動、或は寢言までである

×

スザンスキーといふ人は、種々の動物を六時間から四時間の間に睡眠を減じて見ても、何ら變つた事はなかつたといふ實驗を發表してゐる。

動物

の北四時間に於ける休養及び活動の時間を比較して、ある動物は二十四時間内に數回休養の時をもち、あるものは一度しかもたないといふことを發見したトロピドノトウス・ナトリックスといふ類に金色の鱗のある魚は後者の一例である、その魚は晝に正午から午後一時三十分まで活動し

睡り

との二十四時間の關

それから次の日の正午まで睡る、實驗に二十四時間單位に睡を續いて十六時至二十四時休息する

猫は

一回れむる、カナリヤは一回しか休息しない、兩方のすぐれてゐる動物に大低一回しかやすまない、人間の場合は赤ん坊は何度でもれむるが、大人になると一回しかない、そして最初數時間深いねむりが續くとそれから睡りの淺い數時間が續く

×

若し一眠りの人々を醒醒し、人工の光によつて生活せしめ、目覺めとと

睡り

との二十四時間の週期をもつ人間たちから强ひさせるならば、三十六時間を週期とするここと國語でないとクレイトマン氏位迄つてゐる、また市街線系統の前方に於ける運轉手には多かれ少かれ神經的であるが、なくの人についてテストをしたところによれば

覺醒

後、五時三時間が最も快適に過ごされ、午後及び夜は低下する、長く睡らないでゐた後の目中よりも夜の方が能率である、睡眠なしの中樞神經系統の活動には一定の限度がある、疲れ、早かれ、活動不能の狀態が來る、睡眠によつて

頭腦

は睡眠中に囘復し活動可能の狀態になる、そしてまた再び睡眠によつて、ガソリンを補給されたエンヂンの如く働くこの人體機構は、人間の利便に合ふやうにスイツチを入れたり、切つたりすることが出來る、そしてエネルギーの貯へが最も多いときにスイツチを切りよく、またエネルギーの貯へが最も多いときにスイツチを入れ易いやうに出來てゐる

單

×

衣や敷物で體に日立つ程に曲つてゐる人の多いことですが、これは仕立ての時に自分の身體を十分考慮して寸法を合せ、次にきる時にも腰で帶締を締んで合せることが必要です。

×

帶

は單帶にしろ、名古屋にしろ、やはり男人衆はきりつと中頃にしめ、下でも上過ぎてもいけません。かねは、出來れば用ひたくないもので、帶のほんとの味は結んだ帶にあることはさふまでもありません。

×

し

かしお若い方で、帶になれない方とか、またお帶のすぐ下に落ちてくるやうな方は、かねでおさへますと形がくづれないでよろしうございませう。いい帶にかねのしみが出來ますとこれは絶對に取れませんし、かねを用ひないで、帶あげ止めを用ひて帶を落ちぬやうに工夫するなどもよろしいと存じます。

君になることが難しい樣に心を出すこつでありまして、締緊縮などでも、たとひ緩くても帶をさつぱりと腰に締めつけるやうにし、腹のきをだらりとみせてゐたしては初にも見苦しく、どんなに美しく化粧をさつてゐやうとも、これですつかり又器にゼロといふことになりませう。年齡などは、その人格分地位がさふ〳〵してゐて從ひ上品に見えます。それでも、若い方が無理に合せ、帶締を締んで合せることが必要です。

×

これには

帶にしろ、名古屋にしろ、やはり男人衆はきりつと中頃にしめ、下でも上過ぎてもいけません。かねは、出來れば用ひたくないもので、帶のほんとの味は結んだ帶にあることはさふまでもありません。

×

し

かしお若い方で、帶になれない方とか、またお帶のすぐ下に落ちてくるやうな方は、かねでおさへますと形がくづれないでよろしうございませう。いい帶にかねのしみが出來ますとこれは絶對に取れませんし、かねを用ひないで、帶あげ止めを用ひて帶を落ちぬやうに工夫するなどもよろしいと存じます。

◇燒けて重寶◇ 蠅除け妙法

例に依つて蠅には困りまう、殊に依つて蠅には困りまう、殊に台所へ飛び込んで來る蠅は蠅生上からも放つておけません、殺蟲りのリボン、テープ、殺蟲劑などを使用することも一法ですが、これは蠅が飛び込んで來てからの處置です。

これに依つて蠅を捕へてしまふことも大切ですが、同時にその辺のを飛び廻る蠅を飲食物へ寄つけないやうにしたいもの、そこでこんな方法もあります、蠅といふもの は何にでもたかるが、バターには決してたかりません。

これは料理バターでも何でも結構、小皿に入れ、その中に、胡椒、唐辛子の類を加へて練つたものを蠅の上にでもおくと、その間に蠅は來て近づきません、これは實に奇妙です。

◇ハエ取紙◇

蠅取紙を作るには、飴に依つて蠅には困りまう、殊に台所へ飛び込んで來る蠅は蠅生上からも放つておけません、殺蟲りのリボン、テープ、殺蟲劑などを使用することも一法ですが、これは蠅が飛び込んで來てからの處置です。

これに依つて蠅を捕へてしまふことも大切ですが、同時にその辺のを飛び廻る蠅を飲食物へ寄つけないやうにしたいもの、そこでこんな方法もあります、蠅といふもの は何にでもたかるが、バターには決してたかりません。

これは料理バターでも何でも結構、小皿に入れ、その中に、胡椒、唐辛子の類を加へて練つたものを蠅の上にでもおくと、その間に蠅は來て近づきません、これは實に奇妙です。

◇ハエ取紙◇

蠅取紙を作るには、飴に依つて蠅には困りまう、殊に台所へ飛び込んで來る蠅は蠅生上からも放つておけません、殺蟲りのリボン、テープ、殺蟲劑などを使用することも一法ですが、これは蠅が飛び込んで來てからの處置です。

これに依つて蠅を捕へてしまふことも大切ですが、同時にその辺のを飛び廻る蠅を飲食物へ寄つけないやうにしたいもの、そこでこんな方法もあります、蠅といふもの は何にでもたかるが、バターには決してたかりません。

これは料理バターでも何でも結構、小皿に入れ、その中に、胡椒、唐辛子の類を加へて練つたものを蠅の上にでもおくと、その間に蠅は來て近づきません、これは實に奇妙です。

ガラスの 着物が出現

來春早々お目見得

代用品黄金時代の波に乘つて日本にもいよいよガラスの着物が現れた、日本のグラスファイバー工業にこれで年八万噸からの行程の輸入を驅逐する、之は獨逸製品の數の破碎、防音資材等の保温資材を造るために國内に昭和七年頃から研究されはじめんどに前進に成功、明春には遅くも數種ものガラスの着物、洋服を市場にお目見得さうだと意氣込んでゐる（寫眞（下）はグラスファイバーと（上）その製品）

氏は云つてゐる、また市街線系統の前方に於ける運轉手には多かれ少かれ神經的であるが、なくの人についてテストをしたところによれば

覺醒

後、五時三時間が最も快適に過ごされ、午後及び夜は低下する、長く睡らないでゐた後の目中よりも夜の方が能率である、睡眠なしの中樞神經系統の活動には一定の限度がある、疲れ、早かれ、活動不能の狀態が來る、睡眠によつて

頭腦

は睡眠中に囘復し活動可能の狀態になる、そしてまた再び睡眠によつて、ガソリンを補給されたエンヂンの如く働くこの人體機構は、人間の利便に合ふやうにスイツチを入れたり、切つたりすることが出來る、そしてエネルギーの貯へが最も多いときにスイツチを切りよく、またエネルギーの貯へが最も多いときにスイツチを入れ易いやうに出來てゐる

單

×

衣や敷物で體に日立つ程に曲つてゐる人の多いことですが、これは仕立ての時に自分の身體を十分考慮して寸法を合せ、次にきる時にも腰で帶締を締んで合せることが必要です。

×

帶

は單帶にしろ、名古屋にしろ、やはり男人衆はきりつと中頃にしめ、下でも上過ぎてもいけません。かねは、出來れば用ひたくないもので、帶のほんとの味は結んだ帶にあることはさふまでもありません。

×

し

かしお若い方で、帶になれない方とか、またお帶のすぐ下に落ちてくるやうな方は、かねでおさへますと形がくづれないでよろしうございませう。いい帶にかねのしみが出來ますとこれは絶對に取れませんし、かねを用ひないで、帶あげ止めを用ひて帶を落ちぬやうに工夫するなどもよろしいと存じます。

連載漫畫 コリスのピヨンタ ⑬ 吉本三平

夫に墓切られる

問

二十二歳の人妻です。二十の春ふとした事から交際して居る男に淡い戀心に移り純潔な愛情が一年餘續いてAは仲人を立て私の父母に求婚しました。父母は反對でしたが結局折れて許して呉れました。今から考へるとAの愛情なるものは一時的であつたので思出してもばかくしくなる事ばかりです。私は無垢な心持でゐます。その女は日額貳圓の月八万圓も分けて貰つたといふのです、私は何と小説者だつたでせう。夫の不行跡にはもう苦痛を感じません。既に私も角に世界的な男性の中から選び定めた戀愛を完結して此の世での同棲生活に入つてゐるべきはずの身にはなほ（切れないと二回）

相談相手となく典型に依る精神上の問題方は手紙で封の上朝日新聞社別御申込み下さい、電話や面會は御斷りします。

答

御手紙を拜讀して御氣の毒さうに堪へられません。凡そ夜發ある女性として一番心痛せられる問題にお惡になつたと申すべき御心情察に係る次第です。恐らく夫君は愛人ではありますまい、愛ろ一番人目すべき部類の人らしい、道德上の理想も低く從て意志も弱い方に違ひない。今更相知つた當時を知何に回想後悔し吐息致して見ても致し方のない問題です又新婚當時情勢のもとに當然許さるべきもの程度から、强い手足の運動、或は寢言までである

×

スザンスキーといふ人は、種々の動物を六時間から四時間の間に睡眠を減じて見ても、何ら變つた事はなかつたといふ實驗を發表してゐる。

動物

の北四時間に於ける休養及び活動の時間を比較して、ある動物は二十四時間内に數回休養の時をもち、あるものは一度しかもたないといふことを發見したトロピドノトウス・ナトリックスといふ類に金色の鱗のある魚は後者の一例である、その魚は晝に正午から午後一時三十分まで活動し

睡り

との二十四時間の週期をもつ人間たちから强ひさせるならば、三十六時間を週期とするここと國語でないとクレイトマン氏位迄つてゐる、また市街線系統の前方に於ける運轉手には多かれ少かれ神經的であるが、なくの人についてテストをしたところによれば

覺醒

後、五時三時間が最も快適に過ごされ、午後及び夜は低下する、長く睡らないでゐた後の目中よりも夜の方が能率である、睡眠なしの中樞神經系統の活動には一定の限度がある、疲れ、早かれ、活動不能の狀態が來る、睡眠によつて

頭腦

は睡眠中に囘復し活動可能の狀態になる、そしてまた再び睡眠によつて、ガソリンを補給されたエンヂンの如く働くこの人體機構は、人間の利便に合ふやうにスイツチを入れたり、切つたりすることが出來る、そしてエネルギーの貯へが最も多いときにスイツチを切りよく、またエネルギーの貯へが最も多いときにスイツチを入れ易いやうに出來てゐる

單

×

衣や敷物で體に日立つ程に曲つてゐる人の多いことですが、これは仕立ての時に自分の身體を十分考慮して寸法を合せ、次にきる時にも腰で帶締を締んで合せることが必要です。

×

帶

は單帶にしろ、名古屋にしろ、やはり男人衆はきりつと中頃にしめ、下でも上過ぎてもいけません。かねは、出來れば用ひたくないもので、帶のほんとの味は結んだ帶にあることはさふまでもありません。

×

し

かしお若い方で、帶になれない方とか、またお帶のすぐ下に落ちてくるやうな方は、かねでおさへますと形がくづれないでよろしうございませう。いい帶にかねのしみが出來ますとこれは絶對に取れませんし、かねを用ひないで、帶あげ止めを用ひて帶を落ちぬやうに工夫するなどもよろしいと存じます。

汗をピタリととめる 特殊のお化粧法

長時間の外出や汗性の人には效果できめん

一番

美しくあることは、汚のために化粧

一つの

外出に、それでも、どうに抑へ

ひますが一體どうすればよろしいものでせうか公正な御判斷をお願ひ致したうございます

（B子）

答

唯愛し通せ

御手紙を拜讀して御氣の毒さうに堪へられません。凡そ夜發ある女性として一番心痛せられる問題にお惡になつたと申すべき御心情察に係る次第です。恐らく夫君は愛人ではありますまい、愛ろ一番人目すべき部類の人らしい、道德上の理想も低く從て意志も弱い方に違ひない。今更相知つた當時を知何に回想後悔し吐息致して見ても致し方のない問題です又新婚當時情勢のもとに當然許さるべきもの程度から、强い手足の運動、或は寢言までである

×

スザンスキーといふ人は、種々の動物を六時間から四時間の間に睡眠を減じて見ても、何ら變つた事はなかつたといふ實驗を發表してゐる。

動物

の北四時間に於ける休養及び活動の時間を比較して、ある動物は二十四時間内に數回休養の時をもち、あるものは一度しかもたないといふことを發見したトロピドノトウス・ナトリックスといふ類に金色の鱗のある魚は後者の一例である、その魚は晝に正午から午後一時三十分まで活動し

睡り

との二十四時間の週期をもつ人間たちから强ひさせるならば、三十六時間を週期とするここと國語でないとクレイトマン氏位迄つてゐる、また市街線系統の前方に於ける運轉手には多かれ少かれ神經的であるが、なくの人についてテストをしたところによれば

覺醒

後、五時三時間が最も快適に過ごされ、午後及び夜は低下する、長く睡らないでゐた後の目中よりも夜の方が能率である、睡眠なしの中樞神經系統の活動には一定の限度がある、疲れ、早かれ、活動不能の狀態が來る、睡眠によつて

頭腦

は睡眠中に囘復し活動可能の狀態になる、そしてまた再び睡眠によつて、ガソリンを補給されたエンヂンの如く働くこの人體機構は、人間の利便に合ふやうにスイツチを入れたり、切つたりすることが出來る、そしてエネルギーの貯へが最も多いときにスイツチを切りよく、またエネルギーの貯へが最も多いときにスイツチを入れ易いやうに出來てゐる

單

×

衣や敷物で體に日立つ程に曲つてゐる人の多いことですが、これは仕立ての時に自分の身體を十分考慮して寸法を合せ、次にきる時にも腰で帶締を締んで合せることが必要です。

×

帶

は單帶にしろ、名古屋にしろ、やはり男人衆はきりつと中頃にしめ、下でも上過ぎてもいけません。かねは、出來れば用ひたくないもので、帶のほんとの味は結んだ帶にあることはさふまでもありません。

×

し

かしお若い方で、帶になれない方とか、またお帶のすぐ下に落ちてくるやうな方は、かねでおさへますと形がくづれないでよろしうございませう。いい帶にかねのしみが出來ますとこれは絶對に取れませんし、かねを用ひないで、帶あげ止めを用ひて帶を落ちぬやうに工夫するなどもよろしいと存じます。

雜誌紹介

▲政界往來（七月號）　女優生態敎の中（ベラ（惡魔部數）座談會（惡魔部數）風の中のベラ（惡魔部數）等諸家の隨筆をはじめとし戰爭と統計（吉岡醫學博士）內閣改造大宇垣政局觀（前內閣書記官長）小川平吉翁の心境を訊く（問答形）小說若槻の乳房（南川天佑）小說盛力團（水守亀之助）など（〇四〇東京市芝區琴平町・政ノ門倉國社發行定價）

貴女の一番美しい笑顔は化粧崩れをまつ防いでから

桑野通子さんの發表

御自分の顔でありながら自分のどんな表情が一番美しいかを知つてる方は少いのぢやないかしら。この頃の暑さによくお化粧崩れしてる方を見ますと、ほんのちよつとの御注意で、もつと美しくおなりになれるのにと他人さまのことでも氣になりますの。それにはお化粧下が何より大事ですから、マスター・パニシングのやうにサラつと溶け込む純良で經濟的なクリームを下地に、その上にマスター・ホームパクトをお使ひならよぶんな脂肪を吸收しますから、生々した新鮮なお化粧が永モチしますわ。

日ヤケを防いで貴女の笑顔をもつと魅力的にする

マスター・パニシングは皮膚專門藥榮養藥ラセランの作用で榮養滲透力が驚く程好果的で日ヤケを防ぎ、脂肪の分泌を調節しますから、崩れ易い夏のお化粧下・髭ソリ後に最適です。

ムーンクロータス パニシング

◎ミツワフレークは容易く望み通りの石鹸液が作れる上に、遊離アルカリを含まず、脂肪酸の配合が適切ですから布地を傷めたりする心配は決してなく、ス・フ、人絹、毛織物絹等のお洗濯に最も理想的な洗料です

又、文化的な用途としては食器洗ひに用ひて大層便利です

鑄十二金 價定

クーレフワツミ

料洗濯洗級高狀片鱗

店商屋見丸 園兩橋本日・京東 舖本總石ワツミ〇

江戸桃花陣 (71)

海音寺潮五郎作
富永謙太郎畫

（其十四）

野獣の群（三）

おりんと茶とは、喧嘩本町の通りに出る所まで一緒に来たが、そこでおりんは伴れてゐる護衛を見つけると、

「でたまた、そなたくし護衛で帰りまま」

と言って、護衛に乗って行ってしまった。

あとに、本多——

急に突き放されたやうな気持でどちらに行かうかと迷ふやうに、しばらくの間、気抜けしたやうな面持でその場に突っ立ってゐたが、やがて、金彩町の方に向って歩き出した。

荷川がありさうにも見えないどころか、至って閑散無駄な足どりで、尾籠を引きずりながら歩いて行つたが、よと、前方の旅籠から三人連れの侍が、荷川家の屋敷であるのに気づくと、おやといふように立ち止まつたなり、呼び止めようとするやうに

片手を挙げたが、屋敷に駆けるため、急然こちらに向って来なければならないので、反対の方角に進んで行くのに気づくと、日光まで出かけて留守のみこんだ。

「すてなん」

「すてなんとは何のことだ」

「荷川のことに決まっておる」

「そうさま、死刑、しかるべきものが出来たのではないかな」

本多のやうな人間の疑考の動きといふものは、微妙なものがあるもので、かく低い所に流れるやうに、こんな所に屋敷を探らつく。

「ことわれば！」

吉原が近い。昌通女のお迎の駕もうちらの方だ……

「よし一緒、駕行てやれ」

まことにもつて御苦労千万なことだが、本多は、わざ〳〵、死くの駕籠屋を買って駕かへたと上、駕とかくれにあとを駕けはじめた。

護衛は金彩町の通りをどこまでも駕屋に行くのである。

二丁目、

三丁目、

その二丁目か三丁目にうつらうとするあたりまで行った時だつた本多は、護衛の一人の男を駕け

その男に駕けられてゐることにはこだわりがないらしく、ふりかへりもしないが、探らしく満足である様子で前のやつの駕らだと駕屋に前がみになって、さほど急ぐと見えない足どりでありながら、実に速い。それにつれて、駕屋の揺度も速い。

見失はないためにには、本多もあるがなければならないわけだが、駕籠屋の駕屋とも言ふべき本多にとつては、かなりな強行軍であり、額から喉がはすんで、汗だらけになつて心臓は肋骨の中からねだすやうにはげしく鳴り出した

てゐるらしいことに気がついた。

「おやく、変なことになつて来をつたな。一駕、あいつア何者だ。いや、何者やかまはんが、荷川のやつさん、何のために、あんな男を駕けてゐるんだらう」

彼等は、遠く離れてゐるし、はつきりとはわからないが、縦横の遊び人風の男である。

海と山とはどちらがよいか

各々の特長により選ぶこと

都会生活者が、疲れを感じて、山や海へ出かけるのは、人間の生理的欲求の現れであるといへますが、都会地は、家屋密列とコンクリート建築の反射熱が強く風も少いので、暑中は此処で暮すのがたまらなくなり、涼しく清潔のよい場所へゆきたいと希ふのでありますところで、山と海とを比べてどちらがよいかといへば、一日の疲労を癒すには、海の方がよいでせう。

（海外小話）

アーノルド・ツワイグの戦争小説

アーノルド・ツワイグは戦争の彼の精神的代弁者を「国王の臨終」につづけてゐる。何時それを彼が完結するか出版者からも別に示唆されてゐない、この四巻目は我々を新しいシーン、戦争の最後の年の軍戦線に我々を導いて行くその時ドイツ軍はまだ最後の勝利を信じてポーランドとリスアニアに踏み込み、リスアニアの王位にドイツの皇族を即位させようとする企図に成功されてゐた、ドイツ人たちが驚嘆してゐる様はリスアニアに対してではなく彼ら自身の間であつた、一方では強欲な汎ドイツの地主たちはプロシアのプロテスタントの皇族を即位させようとし、他方では摂力を握つてゐるもつと積極で進歩してゐる人々は南ドイツのカトリックのテック公を即位させようとした

リスアニアの王位を簡略としてツワイグは彼の物語をもつと広範に進めてゐる、「国王の臨終」は別に新しい方向をとつてゐない、このシリズの既刊の他の巻のやうに真面目な心を持つたモラリストの作である、堅すると細々したことが散山あるが、緊張の到底に過ぎない

「国王の臨終」には過ぎが少くしかも期待する程迄統の展開もない、ツワイグはドイツの狂人生活のたゞ〳〵しい描写を我々の前に繰り拡げただけで、将彼と外交官の交せる駆引、非戦闘員の生活戦線における民衆の心理感情を書いてゐる

「国王の臨終」は主張米の小説といへないが、アーノルド・ツワイグは戦争を観察してより強き立場から戦争を調べ、他の作家よりもつと深いところまで戦争に踏み入つてゐる

期待されるロシア関係の一書

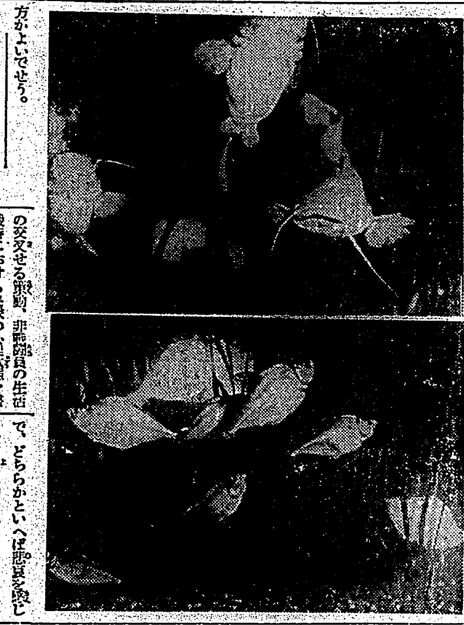
最近ロシアに関する二つの著書は注目に値する、全部的ではないが、部分的に新聞的な見解と観察とをもつてゐる、しかし二者ともロシア民衆の彼らの国における政治生活と行動への態度の分析な説明であるボリス・シルヴアは「ロシア労働者自身の話」と呼んでゐるが、実際これはロシア人のあつて、旅政時代の一九〇五年にオデッサの学校へ通つた時間の経験者のなした観見の報告である、さうして一九〇五年——一九〇六年に熱烈な革命家としての仕事をまとめてゐる、一九三三年以来この厳大な土地のあちこちでなされた活動的な組織にも勿論及んでゐるシルヴアはベルギー人でロシア人である、彼の父はベルギーの社会民衆党の建設者の一人であつたレーニンと革命は彼に幻想の門を開いた、しかし帰つて来て、彼はスターリンの下に全く他の観察を見出すのである、簡潔的、客観的で、どちらかといへば感覚を殺じさせる読み物である

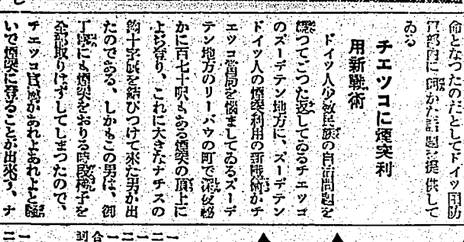
もう一つの書はバーサ・マルニック嬢の著である、彼女は二年ばかり続けずロシアを旅し研究した、彼女は子供の時から大きくなるまでのソヴエット生活の非政治的な描写を思ひついた、実際ロシアの都会生活者にとつて今日みるがごときのロシアの生活描写である、そこでこの本はロシアの日常生活と名づけられた、それは文化と革命の書物にたんこと勿し、別に意見を述べるのが目的ではない、母や子供やクリニック、婦人、青年、幼稚園、学校、供給部、大学、娯楽、図書、映画、音楽、劇場、食物、店、バス、電車、列車について語つてゐる

子供たちの純心な好奇心が理想的な色彩を追求して行くのである

フリツチ将軍返り咲き

ヒットラー総統の「無血戦争」によつて、去る二月四日ドイツ国防軍総司令の職務を去つたフォンフリツチ将軍は、同じく職の様相となつたブロンベルク前国防相が南欧イタリーに新婚旅行に出てゐるのに引きかへベルリンの自邸で閑々の日を送つてゐたが、六月十五日ヒットラー総統から特に第十二ジュウエーリン（歩兵聯隊司令）





水に育つ……（一）

両々……ながらめしい、自動車のこんどにはこだがまよどほしくうれしい事だ、下駄のもひろがへすクテノプリヨン（中の国公園の門）

水に育つ

チエツコに煙突利用新戦術

ドイツ人少数民族の自治問題をめぐつてこうた返してゐるチエツコのズーデテン地方に、ズーデテンドイツ人の煙突利用の新戦術がチエツコ当局を悩ませてゐるズーデテン地方のリーバウの町で煙突破壊に百七十呎ゐる煙突の頂上により、これに大きなナチスの鉤十字を描びつけて来た男が出たのである、しかもこの男は、御丁寧にも煙突をおりる時踏板子を全部取りはずしてしまつたので、チエツコ当局があれとあれとと騒いで煙突に登ることが出来ず、ナチスや煙はいまだに地上の群衆をあつ気にとつてゐるとのことである、ズーデテン・ドイツ人の青年一名が犯人の嫌疑で目下取調べを受けてゐるが、隣接の町では、ズーデテン・ドイツ人が駅前広場のデモを行つたなど、煙突男たちは煙突破壊をめぐる騒ぎは意外大きくなるばかりだ

商況（一日）

臺灣正米市場前場
▲期米現物
中　先　帝人新　六六〇　六七〇　六六〇
中　一一・一〇　東レ新　七六〇　七七〇　七六〇
止　一一・一〇　日窒新　一三五　一三六　一三五
高　一一・一〇　日曹新　七五〇　七六〇　七五〇
安　一一・一〇　日鉱新　一三六　一三七　一三六
▲期米公定相場（四三六単位）
一一・一〇　中間　一三六
一一・一〇　後場　一三六
▲期米現物
不申　一一・一〇　八幡　一三六
基隆在庫米
一期移出米　六六・九九七俵
二期移出米　二三三八
二期在庫米　六〇三五
三期在庫米　一二六
高雄在庫米
一期移出米　五七・二九〇俵
二期移出米　一六〇
二期在庫米　一三〇
三期在庫米　一二〇
▲期米現物
寄不申　止不申　一一・一〇　東レ新　一三六
大阪期米前場
寄　中　先　帝人新　六六〇　六七〇　六六〇
一　三五〇　三五〇　三四九　帝人新　六六〇　六七〇　六六〇
二　三四九　三五〇　三四九　倉紡新　六六〇　六七〇　六六〇
三　三四九　三五〇　三四九　日紡新　六六〇　六七〇　六六〇
四　三四九　三五〇　三四九　東洋新　六六〇　六七〇　六六〇
五　三四九　三五〇　三四九　日毛新　六六〇　六七〇　六六〇
六　三四九　三五〇　三四九　大和新　六六〇　六七〇　六六〇
七　三四九　三五〇　三四九　大和紡　六六〇　六七〇　六六〇
八　三四九　三五〇　三四九　大和紡　六六〇　六七〇　六六〇
九　三四九　三五〇　三四九　大和紡　六六〇　六七〇　六六〇
十　三四九　三五〇　三四九　大和紡　六六〇　六七〇　六六〇
寄不申　止不申　一一・一〇　東レ新　一三六
寄不申　止不申　一一・一〇　東レ新　一三六
寄不申　止不申　一一・一〇　東レ新　一三六

臺灣日日新報

日本夕刊共十二頁

社長　木佐々佐一人行政兼編輯

臺北市榮町三丁目十四番地　電話代表五〇一番　社會部直通二〇五三番　編輯局直通二〇五二番

本紙定價　一部六錢　一ヶ月前金壹圓四十五錢　三ヶ月前金四圓廿錢　半年前金八圓　一ヶ年前金十六圓（日本國內各地郵便料金不要）

廣告料金　特約記事欄　一行十五字　同貳圓　普通欄　一行十五字　同貳圓四十五錢　臨時增頁　一〇頁以內　壹百圓　一五頁以內　壹百五十圓　一六頁以上　壹百八十圓　廣告割引　一ヶ月以上　一割　三ヶ月以上　二割　六ヶ月以上　三割　一ヶ年以上　四割　廣告割增　一ヶ月以上　一割　三ヶ月以上　二割　六ヶ月以上　三割　一ヶ年以上　四割　廣告申込所　臺北市榮町三丁目十四番地　臺灣日日新報社廣告部

社說

時局下に於ける壯丁の體位　臺灣では特に訓練が緊要

一

此の問題を論じた前回に於ては、本島壯丁の體位の概況は一般に優良方しくないが、即ち徴兵檢査成績大佐の談に依れば體格甲種合格の點數は昨年と大體變らないが第一乙種國ち所謂丙種にして所謂ヒョロ長い者が多くて甲に編入し到底現役に適せざる丙種の者が相當增加して、甲種の比率は點數位の新低が四、六で最低位の點數となること、八である。內地の壯丁と比較すると甲種の比率に於て四パーセントも低く身體は大差ないが筋肉に於て劣り四十五粁以下の者が多くないといふ。もち志願は昨年より相當增加したといふ現狀ではあるが、國民四十五粁といふ悲しい體位の壯丁が多少なりとも增加の傾向を示す事情は國家總動員法に依つて青年層動員は勿論資金動員も亦國民體位の向上に俟つて初と銃後國防の完璧を期する必要がある。

二

近來の壯丁は一般に身長は從來より伸びて來たが胸圍發育はその增加の程度に伴ずとあつて內地では國民體位の向上に關して最も好ましい現象であるといふ。體重が劣るといふ點は體位檢查の缺點に於て明かに指摘されたわけだ。之は外地にかける二の重要な問題であり、時局下に於ける人的資源の問題としても留意されなければならぬ。

其の原因を探究し體位向上の對策を講ずる事はゆるがせに出來ない事はもとよりもない。一般の衣食住の問題として環境といふ地理條件に左右されない以上、之を改善せよと言つても容易ではない。然し乍ら體位の向上は國民體育の問題と關聯すべき用意が根本問題であるが、之は施設の完備と訓練の徹底にある。

三

壯丁の教育程度に中等學校以上の學校教育を受けた者が大半を占めてゐるのは內地人子弟の教育の普及を示すものだが中等學校に入學せざる者も初等教育は勿論百パーセントに普及してゐるのだから壯丁の體位向上は教育に於ける缺

教育の振興に俟つところ甚し甚大なものがある。近年の國民體位向上に關して憂慮でも體育熱は相當旺んなものがあるが、然し體育行政組織が統一されずに天佐めてお相撲の奬勵に過ぎない。學校衛生關係の施設の組織を擴充すべき點が多數に殘存されてゐる所以も茲にある。更に體育教育としては青年訓練所に於て青年學校の振興に俟つ所甚大である。勿論之が施設を擴張するには青年層自體の自覺と銃後一般の人士の自覺に俟らつつ國民體位向上の組織的運動を興さなければならぬ。合理的な組織と國民的自覺に訴せる熱意とを以てすれば必ずしも不利な條件を克服して體位の壯丁は優秀なり」といふ時代を招致する事は決して難事ではない。何故の檢查に於て優秀なる壯丁を銃へ上げる爲に擧中休暇の合理化も亦國の問題として國民目に考慮さるべきである。

半數の更新發令

總督府始政記念日の發令は、例年通り六月一日附で發令されたが、今回の人事は以上の如く大體新聞上から無論を揃つた通りやや意外の點もあつたと見るべきで、なほ續いて發表されるのだから

（第二氏の退官に關連して）

總督府始政記念日の發令は、例年通り六月一日附で發令されたが、今回の人事は以上の如く大體新聞上から無論を揃つた通りやや意外の點もあつたと見るべきで、なほ續いて發表されるのだから

上半期の對外貿易
入超四億圓以上減
下半期のバランス樂觀さる

【東京發一日發本社特電】六月下旬の對外貿易概況は輸出八千四百八十二萬円、輸入八千七百八十二萬円、差引入超三百十七万千円で輸出入とも前旬に比し增加したが入超は七百五万二千円を減じた、斯くて戰時下における本年上半期の貿易概況は輸出十二億八千七百十二万円、輸入十四億八千三百万円、合計二十七億七千二百七十四万円で前年同期に比し輸出二億九千五百七十五万円、輸入は九千五百六万六千円の減少である、尙本年一月以降六月中迄の本邦重要商品の輸入數量を前年同期に比較すると次の通りで輸入では棉花、羊毛の二品目にて合計六億四百十二万七千円を節減した、尙下半期は輸出振興の實施を輸入統制の强化、輸入物資の國內消費節約により貿易バランスは好轉を辿り數分の出超を實現、新金融對策と相俟つて重要國の輸入を確保しつつ國際收支の圓滑を補助するものと見られる

	昨年同期	本年同期	增減
棉花	四億二千五百萬斤	一億二千萬斤	三億千五百萬斤
羊毛	一億千萬斤	四千萬斤	六千萬斤

來期製糖用
包裝用品も不足
一日對策を協議

米穀に續發不足の問題があると傳へられる砂糖業界に來期製糖に關する包裝問題から來期製糖にアンペラ手當といふ大きな悩みがあり六月下旬各社の用度主任會議を開催する所あつた

彰化の
買蕉價格
立體增收を奬勵
畑作補助金增額

日本糖業彰化製糖所では去る月二十九日昭和十四年期の買蕉價格の設定に關し從來の方針を變更して左の如く發表した、即ち從來は原料甘蔗一斤に對し補助金を交付すること從來通りであるが、十三年期

新造ツエツペリン 飛行船の偉容

アメリカ合衆國海軍中佐 (上) C・E・ローゼンダール

ドイツは目下四つのツエツペリン飛行船が空中へ飛び上つて機數にしてしまつた。アメリカ、イギリス、イタリー、ロシア等に於て飛行船はこれ程多く一度に飛んだことはない。現在飛行船に乘客をもつてゐるのはドイツだけである。飛行船が乘客や貨物の運搬に最も能力に適かに飛行機の比でなく、その点に於て將來に於ける偉大なる發展の機會である。今回ドイツで建造中のツエツペリンは前大戰に於けるそれに比して（かなりガスに比して重い）を用ひることになつてゐる。これについてアメリカの最も秀れた航空の專門家、海軍中佐C・E・ローゼンダールの論説を左に掲げる。

×

新らしいドイツの飛行船L・Z130號今や、フリードリッヒスハーフェンの格納庫に於いて完成に近づきつつある。この飛行船は未だ命名されてゐないが、從來の飛行船と著しく異つた點にあつて多數の設計者と技師の結果、設計瓦斯として「ヘリウム瓦斯」を用ひる譯である。

このL・Z130號は從來の飛行船に比べ優れた點といふのは先づ使用瓦斯として不燃性のヘリウム瓦斯を使用する点である。この結果はヒンデンブルグ號のやうに突發瓦斯の爆發によつて破壞されやうなことはない。

×

一般的な設計や容積や發動機はL・Z130號にヒンデンブルグ號とほゞ同じである。

ヒンデンブルグ號は六千馬力のエンヂンを四臺備へてゐるが、L・Z130號は五千馬力のエンヂンを四臺備へてゐる。從つて速力は時速八十五哩（一哩は一・六粁）である。

×

ヒンデンブルグ號は一回の航海に八十噸の燃料を積んでゐたが、L・Z130號は六十噸の燃料を積むことになつてゐる。從つて航續力は從來の一萬二千哩から一萬五千哩に延長されることになつた。

×

ヒンデンブルグ號は乘客五十名を乘せ得たが、L・Z130號は乘客二十名を乘せ得るやうに設計されてゐる。

×

ヒンデンブルグ號は一回の航海に二十噸の貨物を積み得たが、L・Z130號は一回の航海に三十噸の貨物を積み得るやうに設計されてゐる。

×

ヒンデンブルグ號は一回の航海に二十噸の郵便物を積み得たが、L・Z130號は一回の航海に五十噸の郵便物を積み得るやうに設計されてゐる。

×

ヒンデンブルグ號は一回の航海に二十噸の手荷物を積み得たが、L・Z130號は一回の航海に三十噸の手荷物を積み